

介護は介互

渥美 由喜

介護離職者が急増している。働きながら介護をしている人は290万人。うち働き盛りの40代、50代は170万人を占め、その4割は男性。介護により離職する人も年間10万人となっている。

筆者は4年前から、仕事のかたわら、実父を介護しているが、仕事と育児・介護はストレス相殺効果があると思う。通常、夕方以降は7歳と3歳の息子たちを連れて実家に通っている。一時期、統合失調症を悪化させた父から、罵詈雑言を浴びてつらかった。しかし、2回の育児経験が介護で生きた。というのも、自分の乳幼児期を「追体験」すると、さぞかし父母も大変だったろうと実感し、数十年、愛情込めて育ててくれた恩返しと思っている。

老父の足腰が衰えないように、よく連れだって散歩しているが、3世代で過ごす時間は実に楽しい。老父が一人で歩いていると「徘徊」だが、孫の手を引いて3世代で歩いていると「幸せ家族」。世間の見る目が違う。

長男が2歳か3歳のころ、私にはやたら反抗するくせに、おじいちゃん自慢をしていた。「ジイジ、すごい手品をするんだよ!」「おかしいなあ、親父は手品なんてできたかなあ?」といぶかしく思っていると、息子は尊敬に満ちた口調で、「お口から歯を出したり入れたりできるんだよ。ボクもあの手品の歯が欲しいな。そうしたら、歯磨きがラクちんなのに」と憧れのまなざし。

また、ある日。一時期、老父はオムツをすることになり、落ち込んでいた。息子は無邪気に「ジイジとボクはオムツ仲間だね。パパだけ仲間外れだね」と言った。老父は孫の無邪気な言葉に笑い転げ、私の心も軽くなった。

「ジイジ、ありがとう」という言葉に父はいちばん幸せそうな顔をする。息子たちにとっても、祖父の若いころの戦争体験などを聞くのは貴重な時間だ。介護は「命のバトンリレー」「介互」だと思ふ。



PROFILE

あつみなおき：東京大学卒業。複数のシンクタンクを経て、(株)東レ経営研究所に入社。国内のワークライフバランス先進企業700社、海外100社を訪問。またコンサルタントとして、実際に企業の取組推進をサポート。プライベートでは7歳と3歳の2児の父親であり、2回育児休業を取得。4年前から実父の介護に奮闘するほか、19年前から地元公園で継続してきた「こども会」のボランティア活動がライフワーク。